

さっぽろ未来創生プラン

概 要 版

平成 28 年（2016 年）1 月

札 幌 市

さっぽろ未来創生プラン 策定に当たって

1 策定の背景

【国の動き】

- 人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、活力ある日本社会を維持していくために、基本理念や国等の責務等を定めた「まち・ひと・しごと創生法」を制定
- 2060年に1億人程度の人口を確保する長期展望を示す長期ビジョンと、平成27～31年度（2015～2019年度の5か年）の政策目標や施策をまとめた総合戦略を策定

【札幌市の対応】

- 札幌市は、ここ数年のうちに人口減少が始まると見込まれており、「札幌市まちづくり戦略ビジョン」（平成25～34年度）に示した「人口減少の緩和」の方向性を具現化するため、国の動向も踏まえて、札幌市の人口の将来展望や、今後5か年の基本目標、施策等を示す新たな計画を策定

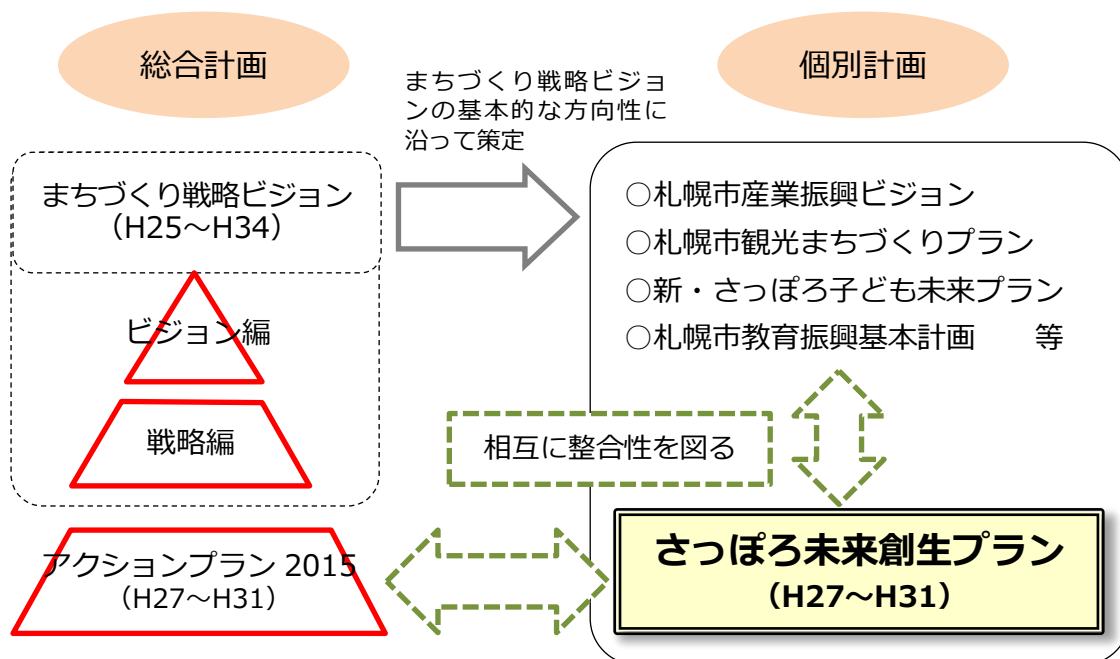
2 全体構成

【人口ビジョン編】 <対象期間：2060年まで>

- 札幌市における人口の現状を分析するとともに、人口の将来展望と今後目指すべき将来の方向を提示。

【総合戦略編】 <計画期間：5か年（平成27～31年度（2015～2019年度））>

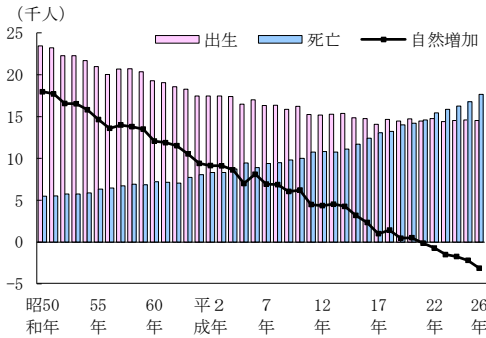
- 人口ビジョン編を踏まえ、基本目標とその達成度を計る数値目標を設定するとともに、施策と重要業績評価指標（KPI）を提示。
- 「さっぽろ」の未来をつくる重要な5つのテーマに特に関連性のある施策群を「未来創生アクション」として提示。



「人口ビジョン編」

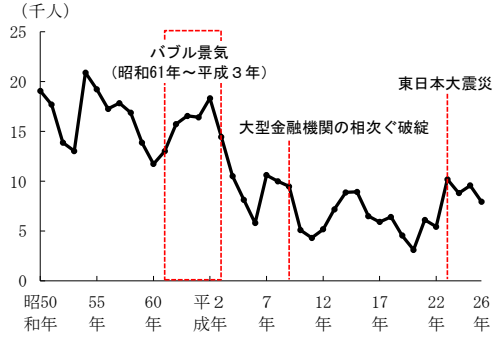
1 札幌市の人口

出生数及び死亡数の推移（各年中）



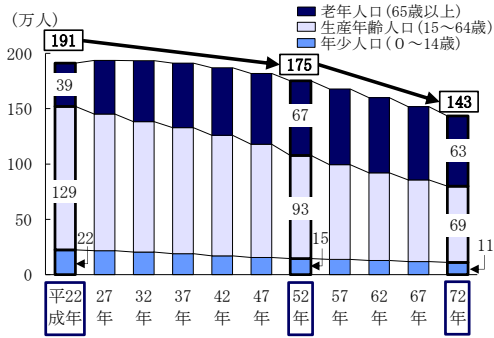
注：住民基本台帳による。日本人のみの数値である。
 <資料> 札幌市

転入超過数の推移（各年中）



注：住民基本台帳による。日本人のみの数値である。
 <資料> 札幌市

札幌市の人口の将来見通し（各年10月1日現在）



注：平成22年の総数には年齢「不詳」を含む。
 <資料> 総務省「国勢調査」、札幌市

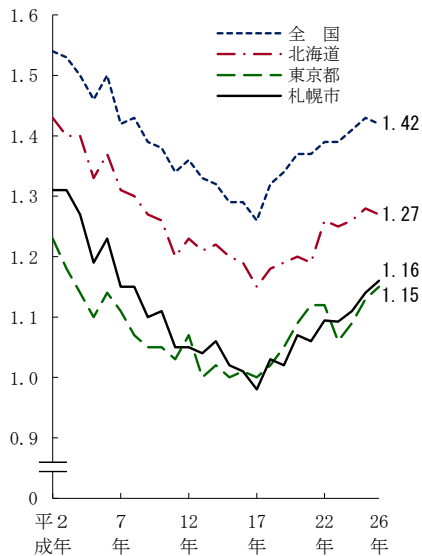
札幌市は戦後一貫して人口が増加し、その規模は縮小していますが、現在も年間 5 千人程度の増加が続いています。

自然動態（出生－死亡）では、平成 21 年に自然減となってから、減少規模の拡大が続いています。また、社会動態（転入－転出）では、転入超過が続いていますが、その規模は社会経済情勢の影響を受けています。

これらの人口動態の傾向をとらえ、国の推計方法に準じて、札幌市の将来人口を推計すると平成 22 年の 191 万人から、平成 72 年には 143 万人と 50 年間で 48 万人の減少が見込まれます。

2 札幌市の人口動態の考察 ～①自然動態～

全国、北海道、東京都及び札幌市の合計特殊出生率の推移（各年中）



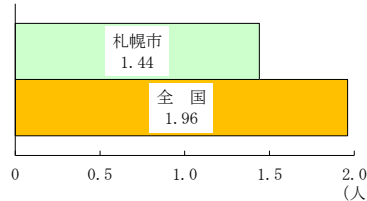
<資料> 厚生労働省「人口動態統計」、札幌市

主な年齢別女性の未婚率の全国との格差

平成22年10月1日現在			
年齢	札幌市 (%)	全国 (%)	格差 (札幌市-全国)
総数	28.6	23.3	5.3
20～24歳	91.5	89.6	1.9
25～29歳	67.0	60.3	6.7
30～34歳	42.3	34.5	7.8
35～39歳	30.4	23.1	7.3
40～44歳	23.7	17.4	6.4
45～49歳	18.0	12.6	5.5

<資料> 総務省「国勢調査」

札幌市及び全国の完結出生児数



注：対象は結婚持続期間15～19年の札幌市は回答者が初婚、全国は初婚どうしの夫婦（出生子ども数「不詳」を除く）。

<資料> 国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」、札幌市「出産・育児に関する意識調査」

札幌市の平成 26 年の合計特殊出生率は 1.16 で、これは都道府県で最も低い東京都（1.15）と同水準となっており、全国的にみても低位にあり、課題となっています。

合計特殊出生率が低い原因は、

- ①高い未婚率
 - ②夫婦間の出産数の少なさ
- によるものと考えられます。

25～39歳の男女別主な結婚への最大の障害の割合

○内の数字は、意識調査の項目中の順位である。

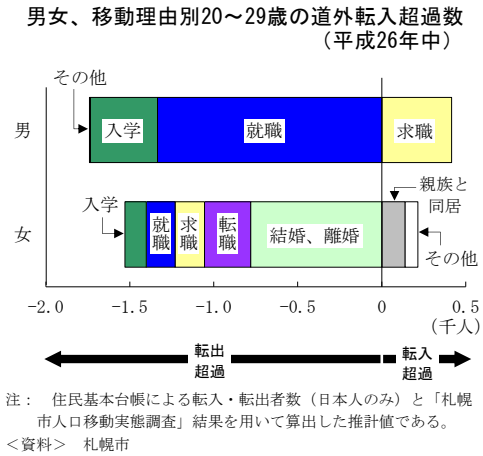
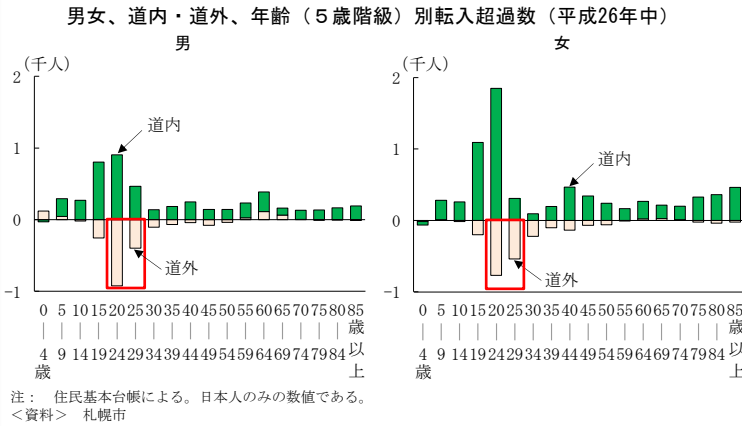
区分	男	女
挙式の費用など、結婚するための資金	③ 15.9	③ 12.3
結婚後の生活を維持していくための資金	① 31.8	① 21.9
非正規で雇用が不安定	② 17.6	⑥ 4.1
健康上のこと	④ 8.2	② 13.7

<資料> 札幌市「結婚及び出産・育児に関する意識調査」

2 札幌市の人口動態の考察 ～②社会動態～

札幌市の人口移動は道内からは転入超過である一方、道外へは転出超過となっている点が特徴。特に、年代別では20歳代若年層は、他の年代よりも道外に対する転出超過規模が突出して大きく、札幌市の課題となっています。

道外への移動理由別20歳代の転出超過数は男性では就職による転出超過が目立っています。また、女性では結婚、離婚による転出超過が比較的多く、次いで転職や求職など、職業に関連した理由となっています。



3 目指すべき札幌の将来 ～札幌市の基本的方針～

札幌市においては合計特殊出生率1.16に対し、希望出生率が1.5※となっており、市民の希望をかなえることで、合計特殊出生率を上昇させることは可能であると考えられます。

札幌市の20歳代では就職などを契機とした首都圏への転出超過が顕著であり、若年層を中心とする人口流出の抑制と道外からの人口流入の促進が必要となります。

安心して働ける
環境づくりなど

安定した雇用の
場の創出など

結婚や出産を望む市民の
希望がかなえられる社会の実現

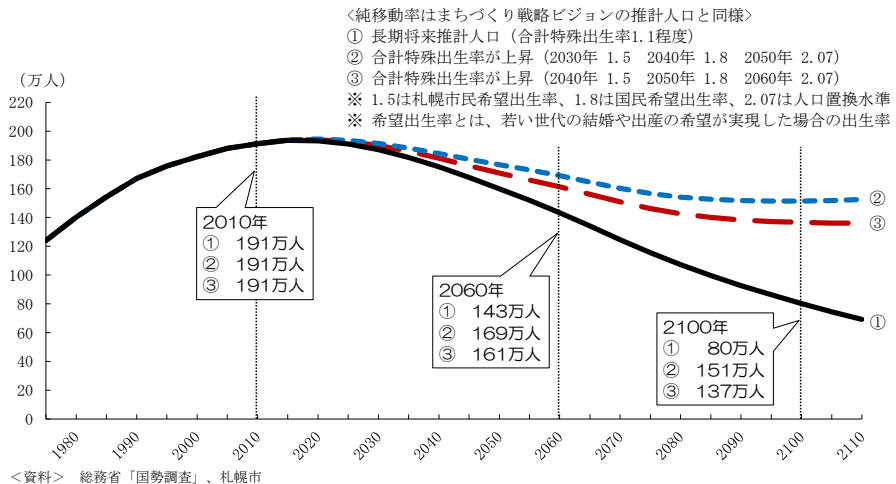
地域に定着できる環境づくり

※若い世代の結婚や出産の希望が実現した場合の出生率を表し、札幌市が独自に行った意識調査により算出。

【参考】札幌市の人口の推移と長期的な見通し

○仮に、札幌市の合計特殊出生率が2030年に1.5程度、2040年に1.8程度、2050年に2.07程度まで上昇すると、2060年の人口は169万人となり、その後は150万人台で推移するものと推計されます。

○また、合計特殊出生率が1.5、1.8や2.07となる年次が10年ずつ遅くなると、2060年で8万人程度、2100年で14万人程度少なくなると推計されます。



「総合戦略編」

1 総合戦略編の策定に当たって

【基本目標の設定】

基本目標1 好循環の実現に必要な「安定した雇用を生み出す」

基本目標2 好循環を促進する「結婚・出産・子育てを支える環境づくり」

<共通して実現を目指す「数値目標」>

(1) 合計特殊出生率

2030年:H42までに市民の希望出生率「1.5」を目指す
1.16 (H26) ⇒ **1.36** (H31)

(2) 20～29歳の道外への転出超過数

10年後(2024年:H36)に転出超過数「0人」を目指す
2,637人 (H26) ⇒ **1,300人** (H31)



2 基本目標

基本
目標
1

安定した雇用を生み出す

<現状と課題>

結婚や出産には、雇用形態や収入など経済面での不安が大きな障害

依然として続く雇用のミスマッチ

若者が首都圏へ大幅に転出超過特に男性の多くは「就職」を理由

正規雇用割合が比較的低い産業の従業者が多い

雇用の質
雇用形態・賃金・やりがい

雇用の量
希望する職種・地域

両面での
確保・拡大が
重要

<施策>

(1) 札幌市産業の競争力強化【分野別】

札幌市の成長をけん引する4分野の振興

- ① 国内外の需要を積極的に取り込む観光・MICEの振興 ～ Wi-Fi環境の充実など外国人観光客の受入体制整備、MICE誘致強化に向けた推進体制や開催支援 など
- ② 食の魅力を生かした産業の高度化 ～ 6次産業の活性化、商品の安全性・製造品質の向上 など
- ③ エネルギー転換に対応した環境産業の創出・振興 ～ 技術開発支援などによる環境産業の競争力強化 など
- ④ 需要が高まる健康・福祉産業の育成 ～ 健康・医療・バイオ関連企業や研究機関の誘致促進 など

<KPI> 札幌市内での総観光消費額 4,293億円 (H26) ⇒ 4,414億円 (H31)
食料品製造業の製造品出荷額 2,150億円 (H25) ⇒ 2,314億円 (H31) など

(2) 札幌市産業を支える基盤づくり【業種横断的】

意欲的・創造的な主体が活動しやすい環境

- ① 札幌市経済を支える企業の基盤強化 ～ 資金面での中小企業の下支え、中小企業の活性化 など
- ② 競争力を高める付加価値の創出 ～ ITを活用した他産業の付加価値創出 など
- ③ 新たな企業の誘致・創出 ～ 積極的な企業誘致の展開、創業しやすい環境づくり
- ④ 国内外への販路拡大の推進 ～ 食関連企業の海外展開の推進、道内連携による販路拡大 など
- ⑤ 交通ネットワークの充実と道都・札幌の都心の魅力づくり ～ 新幹線や道産網の整備推進、民間活力を導入した都心整備 など

<KPI> 札幌を含めた広域経済圏の輸出額 3,072億円 (H26) ⇒ 3,143億円 (H31) など

(3) 地域が必要とする人材の育成・定着

企業を支える「源」である人材を確保・育成

- ① 産業を支える人づくり ~ 各分野の担い手育成、グローバル人材の育成 など
- ② 人材の還流を創出 ~ 首都圏大学からの人材の還流創出 など
- ③ 安心して働ける環境づくり ~ 正社員就職の促進、地元企業への就業機会の創出 など

<KPI> 20~29歳の首都圏からの転入者数 3,427人(H26) ⇒ 4,000人(H31)
市内新規学卒者の道内就職割合 60.5%(H26) ⇒ 65.0%(H31) など

基本
目標
2

結婚・出産・子育てを支える環境づくり

<現状と課題>

結婚や出産には、出会いや経済面以外にも、体力面、精神面も負担

地域のつながり希薄化など家庭や地域における教育力の低下

長時間労働など仕事と生活の調和がとれない状況が少子化を加速

<施策>

(1) 結婚・出産・子育ての切れ目のない支援

個々の状況に応じた適切な支援

- ① 結婚の希望をかなえる支援 ~ 結婚に関する情報提供の充実、男女の出会いの場の創出 など
- ② 妊娠期から子育て期までの支援 ~ 産前・産後ケアの充実、産婦人科の救急医療相談体制の拡充 など
- ③ 子育て支援の充実 ~ 多様な保育サービスの提供、子育て世帯の経済的負担の軽減 など

<KPI> 子どもを生み育てやすい環境だと思ふ市民の割合 59.8%(H26) ⇒ 75.0%(H31) など

(2) 子どもへの支援の充実

学習や体験活動の量的・質的な充実

- ① 子どもの学習支援の充実 ~ 多様な学びの機会の充実、小中一貫教育の検討 など
- ② 子どものスポーツ・文化に親しむ機会の充実 ~ 中学校運動部活動の振興、ウィンタースポーツの振興 など
- ③ 子どもが安心して過ごせる学校・施設的环境づくり ~ 児童の放課後の居場所づくり など

<KPI> 子どもが、自然、社会、文化などの体験をしやすい環境であると思ふ人の割合
60.8%(H25) ⇒ 65.0%(H31) など

(3) 子育てを支える社会の形成

子育て家庭等を社会全体で支援

- ① 子育てしながら働ける環境の整備 ~ ワーク・ライフ・バランスの推進、女性の活躍の推進 など
- ② 地域で子育てを支える環境の整備 ~ 身近な地域での子育て支援機能の強化 など
- ③ 配慮を要する子どもへの支援 ~ 児童虐待などの困難を抱える子どもの支援 など

<KPI> 仕事と生活の調和がとれていると思ふ割合 47.3%(H26) ⇒ 65.0%(H31) など

3 未来創生アクション

「札幌市まちづくり戦略ビジョン」の目指すべき2つの都市像「北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち」、「互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち」を実現することで、「さっぽろ」の魅力が高まり、将来を担う若者や子どもたちが、明るい未来を描くことができると考えています。

この計画においても、「さっぽろ」の魅力を高めるため、これまで以上に分野横断的な視点で関連する施策を意識し、効果的に取り組む必要があります。

そこで、「さっぽろ」の未来をつくる重要な5つのテーマを設定し、特に関連性のある施策群を「未来創生アクション」として取りまとめました。

【アクション1】 グローバル展開

海外市場を獲得するため、「食」に関連する産業を高度化し、海外展開を強化するとともに、海外からの誘客を促進し、受入環境の整備などにより、観光客の満足度を高めます。

これらを戦略的な情報発信と一体的に行い、世界に躍進する「さっぽろ」をつくります。

【アクション2】 まちの魅力アップ

国内外の多くの人が行き交い、市民が誇りを持てるまちづくりを進めるため、「さっぽろ」ならではの魅力資源を積極的に活用するとともに、札幌の顔にふさわしい都心を形成することで、世界から注目を集める「さっぽろ」をつくります。

【アクション3】 若者の希望実現

若者の雇用の選択肢を広げ、希望する地域でやりがいのある職業に就くことができる環境を整えるとともに、雇用の質の確保や量の拡大を図ります。

また、結婚の希望をかなえる支援を行うことで、若者の希望をかなえる「さっぽろ」をつくります。

【アクション4】 安心子育て

子育て世帯の経済的負担の軽減など様々な支援を充実させるとともに、子育てしながら働ける環境づくりの推進や、地域での支援を充実させ、子育てを支える社会を形成することで、子育ての希望をかなえる「さっぽろ」をつくります。

「さっぽろ」の 魅力向上

企業・人材・プロジェクトを 惹きつける「さっぽろ」へ

【アクション5】 人材育成

子どもの成長過程に応じて、様々な学習・体験機会を設けることにより、広い視野で活躍し地域に貢献する人材が育つ「さっぽろ」をつくります。

また、学校における情報化の推進など、教育分野で特に人材育成の基礎となる取組について、詳細なプランを別途策定します。

新たな活力を生み出すフィールドの醸成

～ 都市ブランドの確立に向けて ～

国内外から様々な分野の活性化につながる資源を呼び込むため、(企業や人材はもとより、コンテストや実証実験といったプロジェクト など)

「さっぽろ」が、チャレンジを創出するフィールドとなり、多様な主体が活躍できる都市として、広く認知されることを目指します。

4 プラン推進に当たって

- ▶組織横断的な推進体制 ～ 市長を本部長とする「札幌市人口減少対策推進本部」を設置しています。
- ▶進行管理 ～ 「数値目標」及び「KPI」をもとに、外部有識者などの意見を取り入れた進捗管理を行います。
- ▶北海道・市町村との連携 ～ 北海道や道内市町村と問題意識を共有し、これまで以上に連携していきます。
- ▶国への働きかけ ～ 地方創生が真に実効性を伴った取組となるよう、国に対して積極的に提案等を実施します。
- ▶市民・企業との連携 ～ 行政・市民・企業がー丸となって、オール札幌で取り組みます。
- ▶市民・企業への周知 ～ 「人口の将来展望」や「目指すべき将来」など、様々な機会を通じ分かりやすく伝えていきます。

